

2013年度受託研究概要報告

まちの歴史文化資源調査業務

研究メンバー

山之内誠	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
川北健雄	デザイン学部環境・建築デザイン学科教授
長濱伸貴	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
不破正仁	デザイン学部環境・建築デザイン学科助手

委託者

三木市文化遺産活性化実行委員会

研究概要

本研究調査は、三木市の旧市街（三木城址付近の旧湯の山街道沿いとその周辺）を対象に、まちの意匠、材料、工法、環境、精神などの、いわゆる「三木市の歴史文化資源」を整理・記録するとともに、それらをわかりやすい形で住民たちに示し、彼らに三木独自の歴史文化を再認識してもらい、最終的に継続的なまちづくりへと繋げていく手法を探ることを目的としている。

また、本研究調査は平成22年度から継続的に実施しているものであり、4年目にあたる平成25年度は、前年度までに実施した三木旧市街におけるフィールドワークの補足調査を行うとともに、4年間の調査成果を報告書にとりまとめる作業を行った。

具体的には、平成24・25年度に町屋の現況調査と屋外表出物の調査を実施した全域（旧湯の山街道、明石街道、交わし道、姫路街道、東条街道沿い（三木市本町1丁目、同2丁目、同3丁目、福井1丁目、同2丁目、府内町、芝町、大塚1丁目、同2丁目））について、追加項目の調査と調査漏れの補完等を実施した。また、江戸時代の絵図や近代以降の地図を中心とした文献調査も併せて実施した。

研究成果

1) 三木市有宝蔵文書の絵図や、三木市立図書館所蔵の絵図、および近代以降の地図を対比することにより、三木旧市街の骨格をなす旧街道の位置が、18世紀からほぼ変化していないことなどを明らかにした。

2) 町家の現況調査においては、旧三木市街のなかでも地区ごとに町並みの特徴が異なることが明瞭に読み取れた。伝統的町家等が多い地区としては、姫路街道の本町2丁目付近と東条街道があげられ、大正頃から戦後しばらくの間賑わったナメラ商店街（本町2丁目～同1丁目）付近には面被りや看板建築などが多く、比較的近年まで繁華街であった明石道沿いには非在来工法の新しい建物が多いこと、湯ノ山街道の大塚付近には、戦後と思われる在来工法による住宅が多くみられることなどがわかった。また町家の外観を構成する各要素の分布なども一覧にまとめ、旧街道沿いの町家の全貌が定量的に把握できるようになった。

3) 屋外表出物については、抽出した多様な物件を①建築物マップ（町家（伝統的な意匠）／看板建築（面被り）／その他）、②表出物マップ（看板／住宅関係の特徴的なもの／道標・特殊物など／面被り建築）、③まちなみマップ（通りの景観／伝統的町家のファサード／眺望景観／その他）の3種の地図にまとめるとともに、特に町並みのなかで印象的と思われた町家の袖壁や、前道路と町家との間に設けられた三角形の土地については、悉皆的な分布図の作成を行った。

4) 上記の成果を含む、約180ページにわたる調査報告書を取りまとめた。